

A

- ア ② イ ① ウ ② エ ① オ ①
 カ ① キ ④ ク ③ ケ ④ コ ③
 サ ④ シ ② ス ①

▲は、傍線部とは異なる意味の漢字を選ぶ問題。

ア「与」の字には、(1)「与える」／(2)「与る」「与かる」／(3)「与する」という三つの訓読みとそれに伴う意味がある。三つの訓読みとその意味を、それぞれ以下にまとめておこう。

(1)「あたえる」《あたえる》／(2)「あずかる」《関わりができて・関係する》／(3)「くみする」《仲間になる》。(1)の意味をもつ二字熟語には、選択肢①「寄与」・③「所与」・④「給与」以外にも「与奪」「供与」「授与」「賞与」「貸与」「付与(賦与)」など多くある(ちなみに③「所与」は《前提として与えられているもの》という意味)。(2)の意味で用いられる熟語は選択肢②「関与」、他には「参与」くらいしかない。(3)の意味で用いられる熟語は「与党」《政治権力に与する党》、「野党」《「与国」(《同盟関係にある国・同盟国》)の二つである。

イ「陥」の字には、(1)《落ちる・落とす》／(2)《欠ける・不足する》という二つの意味がある。(1)の意味をもつ二字熟語には、選択肢②「陥没」・③「陥落」・④「陥穽」「(陥穽)は「かんせい」と読み《落とし穴・策略・計略》という意味、他には「陥入」がある。(2)の意味で用いられる熟語は選択肢①「欠陥」くらいしかない。

ウ「率いる」とは《多くの人を引き連れて行く》という意味である。

①「率先」③「統率」④「引率」の「率」が同じ意味であり、②「率直」の「率」だけ意味が異なるため、②が正解。

「率」の字には、(1)《全体をまとめて率いる》、(2)《ありのまま・すなお》、(3)《急な・にわかな》、(4)《全体に対する割合》という四つの意味がある。(1)の意味をもつ二字熟語に「引率」「統率」「率先」があり、(2)の意味で用いられる二字熟語には「率直」「真率」がある。また、(3)の意味で「卒然」「軽率」があり、(4)の意味で「確率」「効率」「能率」「比率」「倍率」「税率」などがある。「率」は多義的な漢字である。

エ「忍」の字には、(1)《忍ぶ・我慢する》、(2)《むくい》、(3)《隠れる》という三つの意味がある。傍線部は(1)の意味である。

(1)の意味をもつ二字熟語に、②「堪忍」③「忍耐」④「忍従」「堅忍」などがある。(2)の意味で用いられる二字熟語には、①「残忍」、(3)の意味では「忍者」「忍術」がある。

オ「易しい」は「やさしい」と読む。

②「簡易」、③「平易」、④「難易」の「易」が同じ意味であり、①「不易」の「易」だけ意味が異なるため、①が正解。

「易」の字には、(1)《やさしい・くしやすい》、(2)《かえる・かわる》、(3)《うらない》、(4)《儒教の経典・易経》という四つの意味がある。(1)の意味をもつ二字熟語には「簡易」「平易」「難易」の他に「容易」がある。(2)の意味をもつ二字熟語に「不易」《いつまでも変わらないこと・不変》という意味、「交易」「貿易」「改易」がある。(3)の意味をもつ二字熟語に「易学」「易占」がある。

カ「望」の字には、(1)《遠くを見渡す》／(2)《望む・願う／望み・願い》／(3)《人気・良い評判》という三つの意味がある。(1)の意味をもつ二字熟語には、本文の「展望」、選択肢②「一望」③「遠望」④「眺望」がある。(2)の意味で用いられる熟語は、選択肢①「希望」以外に「願望」「待望」「熱望」「切望」「失望」「絶望」など多数ある。(3)の意味で用いられる熟語は「人望」「声望」「名望」などがある。

キ「現」の字には、(1)《実際の・今の》／(2)《見えなかったものや隠れていたものが見えてくる・現れる》という二つの意味がある。(1)の意味をもつ二字熟語には、本文の「現代」、選択肢①「現物」②「現在」③「現行」以外に「現存」などがある。(2)の意味で用いられる熟語は、選択肢④「現象」以外に「現像」「出現」「実現」「具現」「再現」「体现」「表現」など多数ある。

ク「反省」とは《自分のしたことを、もう一度考えてみる》という意味である。

①「三省」、②「省察」、④「内省」の「省」が同じ意味であり、③「帰省」の「省」だけ意味が異なるため、③が正解。

①「三省」とは《何度も反省すること》、②「省察」とは《自分を省みて、その善悪を考えること》、④「内省」とは《自分の考え、思想、言動などを深く省みること》、という意味である。同じ意味の「省」を使った二字熟語に、「自省」(《自分の言動を自ら省みること》)もある。

③「帰省」とは《郷里に帰ること・また、郷里に帰って父母や師の安否を尋ねること》という意味である。

「省」の字には、(1)《省みる・振り返って考える》、(2)《様子を問う・親や師の安否を尋ねる》という二つの意味がある。

(1)の意味をもつ二字熟語には「反省」「三省」「省察」「内省」「自省」があり、(2)の意味で用いられる一般的な二字熟語は「帰省」くらいしかない。

ケ「情」の字には、(1)《気持ち・感情》、(2)《物事の実際のありさま》、(3)《おもむき・味わい》という三つの意味がある。

(1)の意味をもつ二字熟語には、選択肢④の「叙情」(「叙情」は《自分の感情を表現すること》)以外に「情熱」「激情」「純情」などがあり、(2)の意味で用いられる熟語には本文の「実情」、選択肢①「内情」②「情勢」③「事情」以外に「情報」「情景」「政情」などがあり、(3)の意味で用いられる熟語には、「情趣」「詩情」「風情」(「風情」の読み方は「ふぜい」)などがある。

コ「謝礼」と、①「謝意」、②「謝恩」、④「月謝」の「謝」が同じ意味であり、③「謝絶」の「謝」だけ意味が異なるため、③が正解。

「謝」の字には、(1)《礼を言う・お礼》、(2)《あやまる・わびる》、(3)《ことわる》、(4)《おとろえる・いれかわる》という四つの意味がある。(1)の意味をもつ二字熟語は「謝礼」「謝意」「謝恩」「月謝」以外にも「感謝」「深謝」などがあり、(2)の意味で用いられる二字熟語には「謝罪」「陳謝」がある。また、(3)の意味で「謝絶」(例えば「面会謝絶」のように使う)があり、(4)の意味で「代謝」がある。このように、「謝」は多義的な漢字である。

サ「業」の字には、二種類の音読み「ギョウ」「ゴウ」と訓読み「わざ」の三つの読みにしたがって、三つの意味がある。

(1)「ギョウ」《仕事・成し遂げる事柄》、(2)「ゴウ」《報いを招く前世の行い》(もとは仏教用語)、(3)「わざ」《わざ》という三つの意味である。(1)の意味をもつ二字熟語には、本文の「業界」、選択肢①「業務」②「業績」③「職業」以外に「業者」「企業」「授業」「修業」などがあり、(2)の意味で用いられる熟語には選択肢④「因業」(「因業」の読み方は「いんごう」)以外に「自業自得」などがあり、(3)の意味で用いられる熟語には、「神業」「仕業」「早業」「寝技」「軽業」「業師」などがある。

シ「自白」とは《隠さず全てを自ら申し述べること》という意味である。

①「白状」、③「敬白」、④「独白」の「白」が同じ意味であり、②「明白」の「白」だけ意味が異なるため、②が正解。ちなみに③「敬白」とは《相手を敬って申し上げること》という意味であり、「敬具」「謹白」などと同様、手紙の末尾に置かれる二字熟語である。

「白」の字には、(1)《白い・白くする》、(2)《もうす・告げる》、(3)《明るい・はっきりしている》、(4)《なにもない》、(5)《せりふ》科白《という五つの意味がある。(1)の意味をもつ二字熟語に「白衣」「紅白」「漂白」「精白」などがあり、(2)の意味で使われる二字熟語は「自白」「白状」「敬白」「独白」「謹白」以外に「告白」「表白」「建白」などがある。また、(3)の意味では「明白」以外に「白日」があり、(4)の意味では「空白」「白紙」などがある。以上より「白」は多義的な漢字である。

ス「辞」には、名詞で(1)《ことば》という意味、また動詞で(2)《やめる・ことわる》および、(3)《別れを告げる》という意味がある。傍線部「辞表」は、(2)の意味である。

(1)の意味をもつ二字熟語には、①「辞書」「辞令」「祝辞」「謝辞」「訓辞」「修辞」などがある。(2)の意味で用いられる二字熟語には「辞職」や、②「辞任」③「辞退」④「固辞」などがある。(3)の意味では「辞去」「辞世」がある。

B

- ア ④ イ ③ ウ ① エ ② オ ②
カ ① キ ① ク ③

Bは、傍線部と同じ意味の漢字を選ぶ問題。

- ア「啓」の字には、(1)《ひらく・教え導く》、(2)《申し上げる》
という三つの意味がある。傍線部「啓蒙」は(1)の意味である。
(1)の意味をもつ二字熟語には、傍線部の「啓蒙」以外にも
「啓示」「啓発」や、④「天啓」がある。(2)の意味で用いられ
る熟語には、①「啓上」、②「啓白」(読みは「けいびやく」)、
③「拝啓」「謹啓」などがある。

イ「称」の字には、(1)《となえる・呼ぶ・呼び名》、(2)《ほめ
る・たたえる》、(3)《つり合う》という意味がある。傍線部の
「称賛する」は(2)の意味である。

- (1)の意味をもつ二字熟語には、「呼称」や、④「称号」「名称」
「仮称」「愛称」、②「敬称」「改称」「古称」「公称」「詐称」
「自称」などがある。(2)の意味で用いられる二字熟語には、
「称賛」「称美」や、③「称揚」がある。(3)の意味で用いられ
る二字熟語には、①「対称」「相称」がある。

ウ「謝」の字には、(1)《礼を言う・お礼》、(2)《あやまる・わ
びる》、(3)《ことわる》、(4)《おとろえる・いれかわる》とい
う四つの意味がある。傍線部「謝る」は「あやまる」と読
むので、当然(2)の意味である。

- (1)の意味をもつ二字熟語は、③「謝礼」「謝意」「謝恩」「月謝」
以外にも、「感謝」「深謝」などがあり、(2)の意味で用いられ
る二字熟語には「謝罪」や、①「陳謝」がある。また、(3)の
意味で、④「謝絶」(例えば「面会謝絶」のように使う)があ
り、(4)の意味で、②「代謝」がある。このように、「謝」は多
義的な漢字である。

エ「服」の字には、(1)《着るもの》、(2)《のむ・身に着ける》、
(3)《従う》という意味がある。傍線部「服従」は(3)の意味で
ある。

- (1)の意味をもつ二字熟語には「服装」「衣服」「和服」「洋服」
「私服」や、④「喪服」などがある。(2)の意味で用いられる
熟語には、①「服毒」「服用」、③「内服」「着服」など、(3)の
意味では、②「服役」「服務」「降服」「屈服」「克服」などが
ある。

オ「負」の字には、(1)《負う・身にこらむる》、(2)《たのむ・
頼りにする》、(3)《負ける》、(4)《数学で、零より小さい数》
という四つの意味がある。傍線部「負ける」は「まける」と
読むので、当然(3)の意味である。

- (1)の意味をもつ二字熟語は、「負担」、③「負荷」④「負傷」
や「負債」などがあり、(2)の意味で用いられる二字熟語には、
①「自負」や「抱負」があり、(3)の意味で、②「勝負」、(4)の
意味で「負号」「負数」「正負」がある。このように、「負」は
多義的な漢字である。

カ「勝」の字には、(1)《勝つ・相手を負かす》、(2)《優る・優
れる》、(3)《優れた景色》という三つの意味がある。傍線部は
(1)の意味である。

- (1)の意味をもつ二字熟語に「勝負」「勝敗」「勝利」「勝因」、
「勝算」「必勝」「完勝」「圧勝」、①「連勝」「決勝」「優勝」
などがある。(2)の意味で用いられる熟語には、④「健勝」
③「殊勝」、(3)の意味では、②「景勝」「名勝」がある。

キ「嘆」とは《ため息をつく》という意味であるが、「ため息」
には、悪い意味の「ため息」と、良い意味の「ため息」があ
るため、「嘆」の字にも二つの意味がある。(1)《嘆く・悲しむ》
という意味と、(2)「ほめる」という意味である。傍線部ウの
「嘆く」は「なげく」と読むので、当然(1)の意味である。

- (1)の意味をもつ二字熟語は、①「嘆息」「嘆願」や、「悲嘆」
がある。(2)の意味で用いられる二字熟語には、④「詠嘆」や
③「贊嘆」「賞嘆」の他にも「感嘆」「驚嘆」、②「嘆賞」など
がある。

ク「絶」の字には、(1)《絶つ・絶える》、(2)《遠く隔たる》、(3)《断る・拒む》、(4)《優れた・この上ない》、(5)《非常に・この上なく》という多様な意味がある。傍線部は(1)の意味である。

(1)の意味をもつ二字熟語には、「絶交」「絶食」「絶望」「絶縁」「気絶」「断絶」、③「根絶」などがある。(2)の意味で用いられる二字熟語は「絶海」「隔絶」、(3)の意味では「拒絶」「謝絶」、(4)の意味では「絶品」「絶景」「絶倫」「超絶」や、④「卓絶」、(5)の意味では「絶好」「絶大」、②「絶妙」①「絶賛」「壮絶」などがある。このように、「絶」は多義的な漢字である。